



アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）調査結果

【第4次総合計画・後期計画の結果報告書・概要版】

調査の目的

「アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）」は、総合計画に基づく関市のまちづくりをより着実に推進するため、関市民のまちづくりへの意識等を把握し、政策への反映に生かすことを目的として実施しました。

調査の概要

- 調査対象者 関市に居住している18歳以上の市民3,000人
- 回収方法 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- 回収結果

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
有効回収数	1,126	1,234	1,011	1,206	1,393	1,339
回収率	37.5%	41.1%	33.7%	40.2%	46.4%	44.6%

●報告書の見方

- ・グラフ中の「N」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
- ・グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。

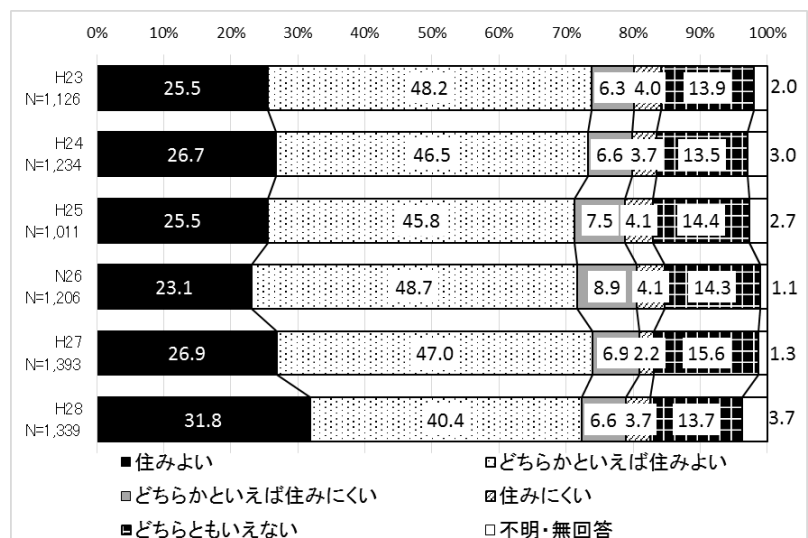
1

関市への居留意向について

●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか

本市を、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と感じている市民の割合は、全ての年度で7割を超えており、一定の評価が得られています。

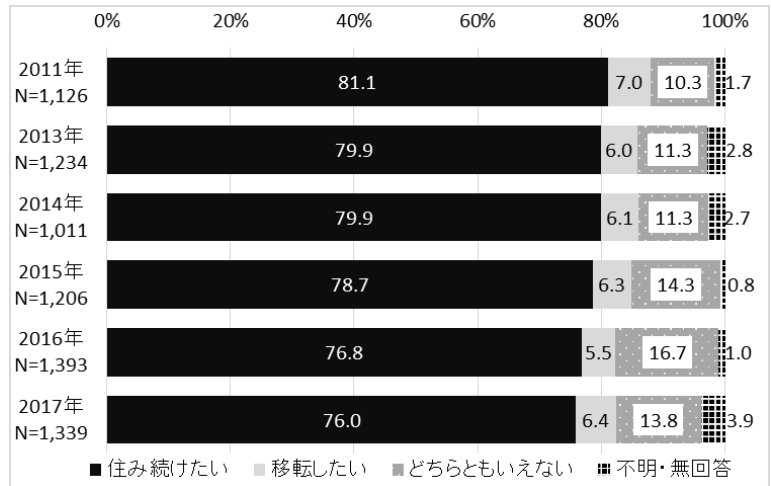
経年でみると、「どちらかといえば住みよい」と感じる割合が減り、「住みよい」と感じる割合が増えています。二つを合わせた割合については、あまり変化がありません。



●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか

本市への居住意向については、「住み続けたい」「移転したい」の割合がともに減少傾向にあり、「どちらともいえない」という流動的な層が増加傾向にあります。

また、「移転したい」と回答した人にその理由をたずねたところ、全ての年度で、「道路、交通の便が悪いから」「日常生活が不便だから」が上位2位となり、次いで、「土地柄になじめないから」「働きがいのある職場が少ないから」とする割合が高くなっています。

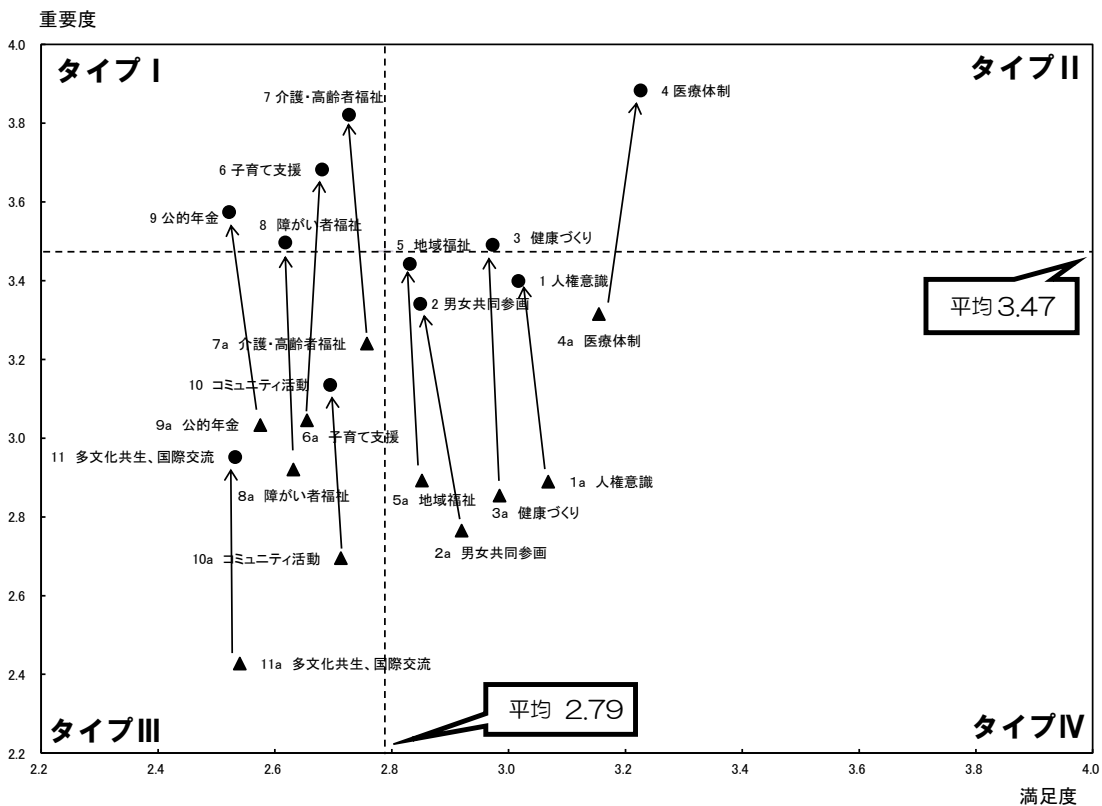


2 施策の重要度・満足度について

施策の重要度、満足度について、政策ごとに平成23年度調査と平成28年度調査を比較しました。

●政策1 みんなで手をとりあい、いきいき暮らせるまち

平成23年度から全体的に重要度が上昇し、満足度は微減または横ばいの項目が多くなっています。「4 医療体制」「6 子育て支援」では満足度が上昇しています。

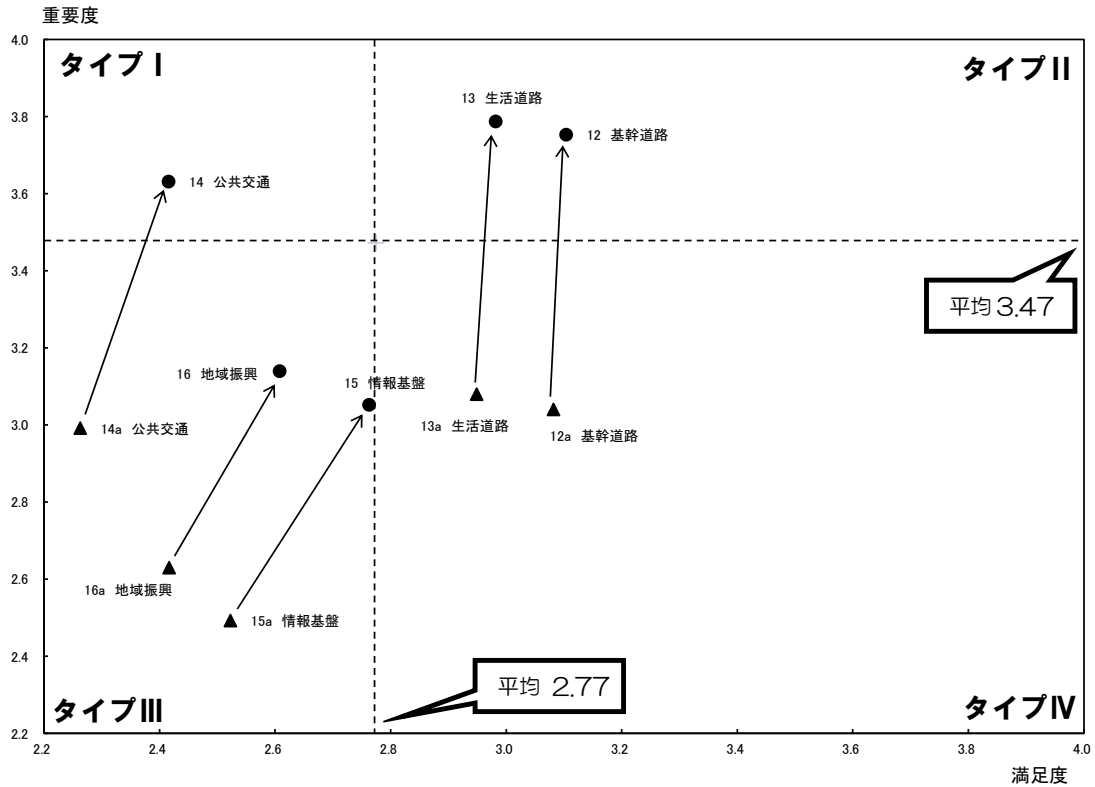


※ポートフォリオ内の重要度・満足度の平均値は、平成28年度の各施策の平均値を記載しています。

※ポートフォリオ内で平成23年度と平成28年度を区別するために、平成23年度については「1a 人権意識」、▲で表記しています。平成28年度については「1 人権意識」、●で表記しています。

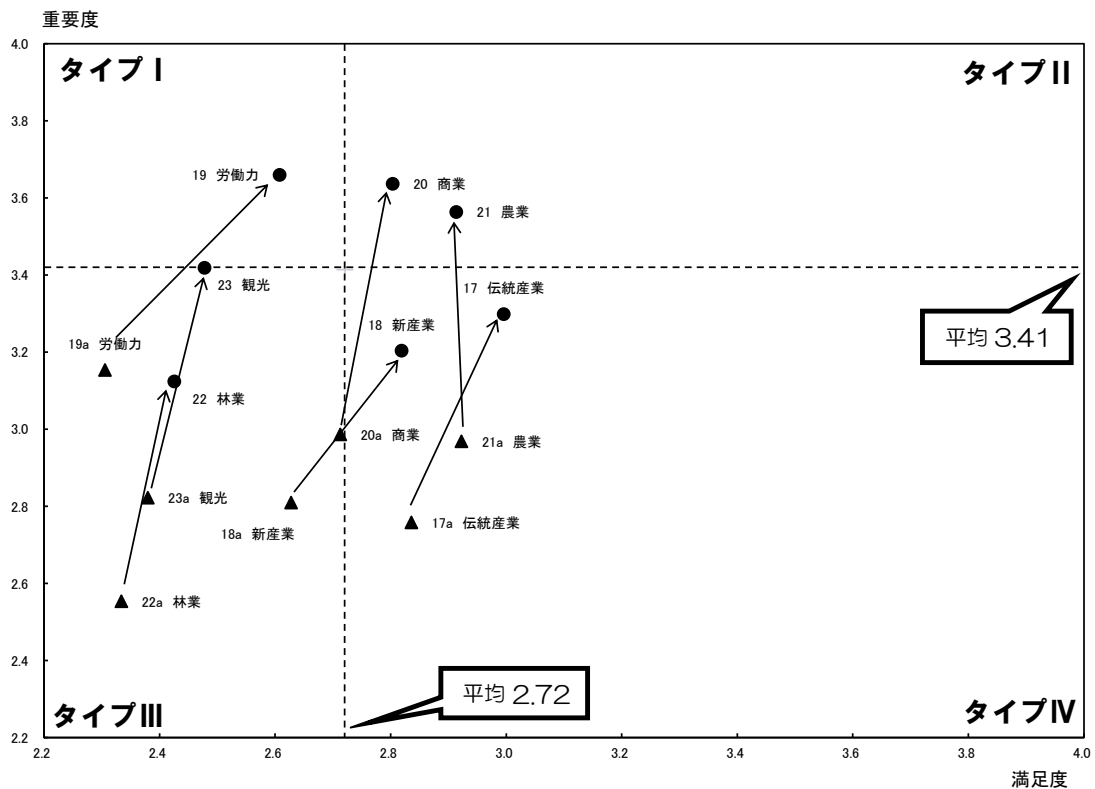
●政策2 行きかい、ふれあい、つながりが生まれるまち

平成 23 年度から全体的に重要度、満足度ともに上昇しています。特に「14 公共交通」「15 情報基盤」「16 地域振興」では満足度の上昇が大きくなっています。



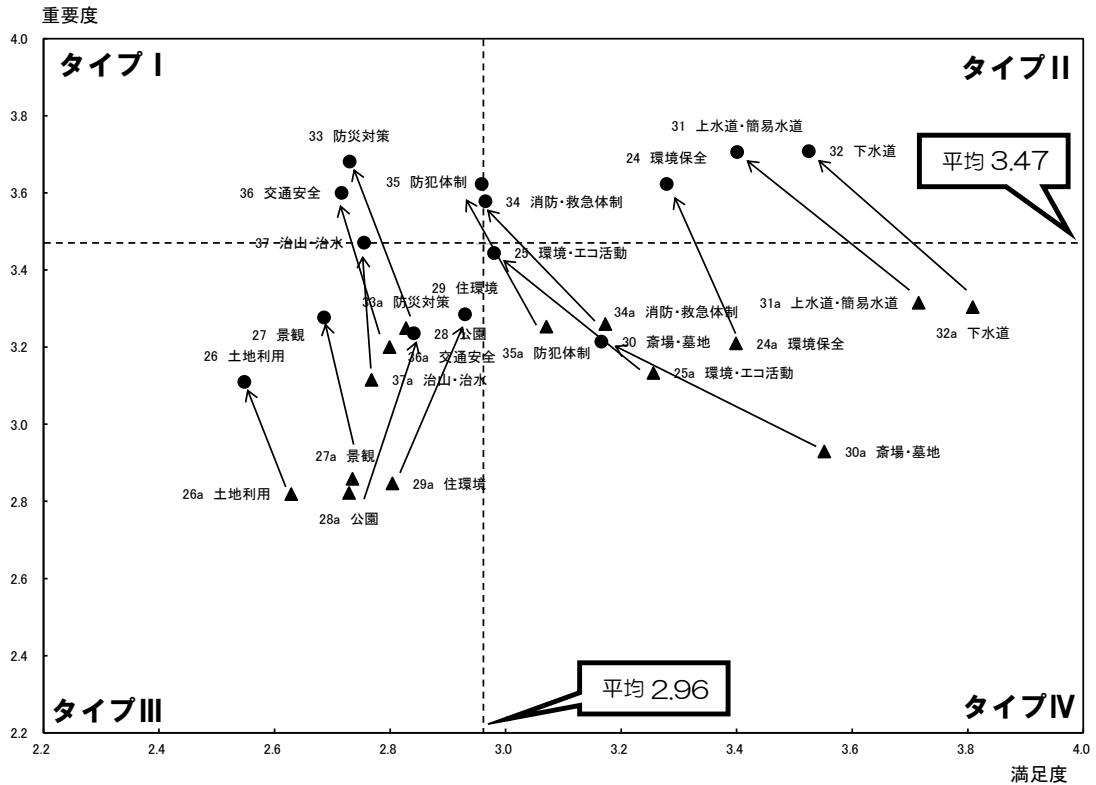
●政策3 伝統のわざと新しい技術が織りなす力強い産業のまち

平成 23 年度から全体的に重要度、満足度ともに上昇しています。特に「19 労働力」では、満足度の上昇が大きくなっています。



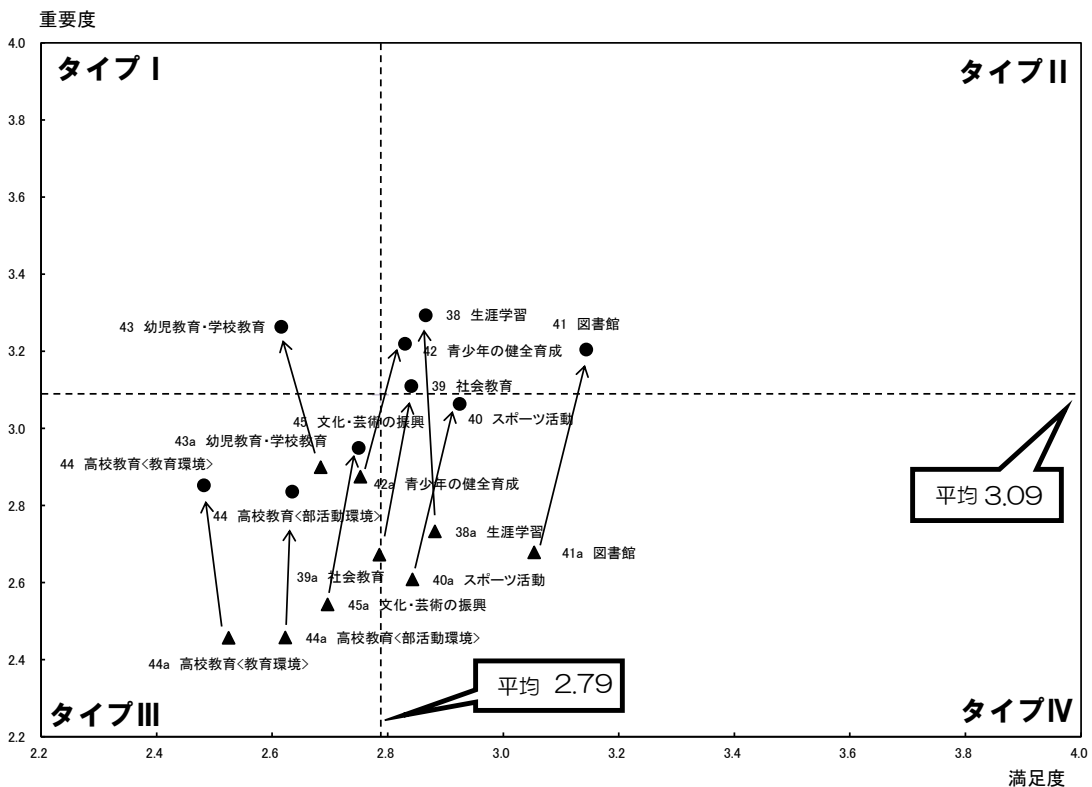
●政策4 人と地球が共生できる安全・安心で快適なまち

平成 23 年度から全体的に重要度が上昇しています。満足度は減少または横ばいの項目が多く、特に「25 環境・エコ活動」「30 斎場・墓地」「31 上水道・簡易水道」「32 下水道」の減少が大きくなっています。一方で、「28 公園」「29 住環境」では、満足度が上昇しています。



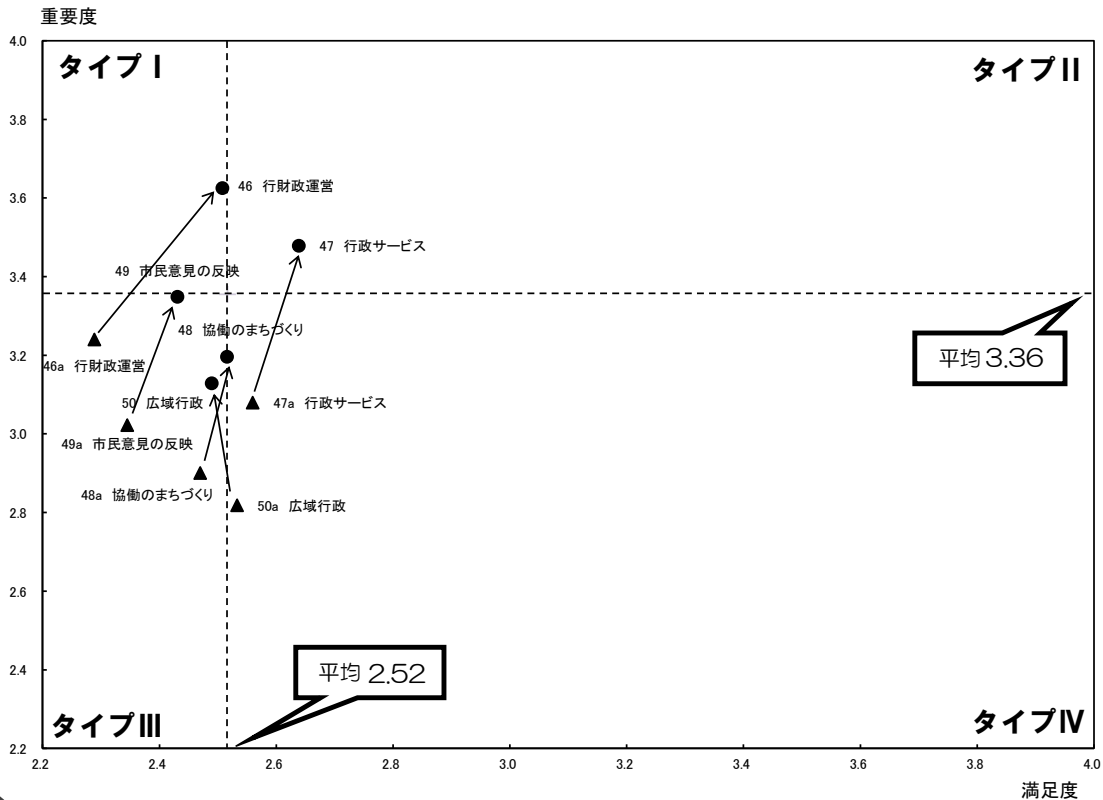
●政策5 郷土を誇りに思い、豊かな心と志を持つ市民が育つまち

平成 23 年度から全体的に重要度が上昇し、満足度は微増または横ばいとなっています。「43 幼児教育・学校教育」「44 高校教育<教育環境>」「38 生涯学習」では満足度が減少しています。



●政策6 改革と協働 行政目線から市民目線、管理から経営の転換

平成 23 年度から全体的に重要度が上昇しています。満足度は「50 広域行政」以外で上昇しており、特に「46 行財政運営」の上昇が大きくなっています。



3

重要度が高く、満足度が低い施策について

タイプ I（重要度が高く、満足度が低い）に分類されている施策を経年でみると、3年間継続して、「子育て支援」「介護・高齢者福祉」「障がい者福祉」「公的年金」の福祉関連の施策、「公共交通」、「労働力」、「行財政運営」、「行政サービス」があがっています。

●「重要度が高く、満足度が低い」(タイプ I)に分類されている施策<経年比較>

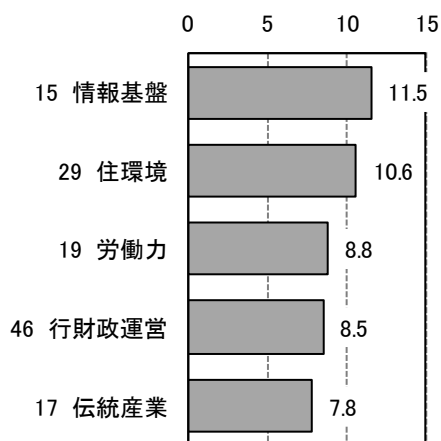
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
6 子育て支援	6 子育て支援	5 地域福祉
7 介護・高齢者福祉	7 介護・高齢者福祉	6 子育て支援
8 障がい者福祉	8 障がい者福祉	7 介護・高齢者福祉
9 公的年金	9 公的年金	8 障がい者福祉
14 公共交通	14 公共交通	9 公的年金
19 労働力	19 労働力	14 公共交通
20 商業	20 商業	19 労働力
		23 観光
	36 交通安全	33 防災対策
42 青少年の健全育成		36 交通安全
46 行財政運営	43 幼児教育・学校教育	
47 行政サービス	46 行財政運営	46 行財政運営
49 市民意見の反映	47 行政サービス	47 行政サービス
	49 市民意見の反映	

4

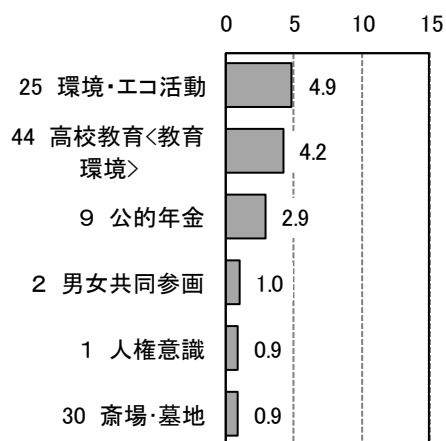
施策の満足度の経年変化について

平成23年度調査と平成28年度調査を比較すると、『満足』では「15 情報基盤」が、『不満足』では「25 環境・エコ活動」が上昇しています。

●『満足』上昇 <上位5位>



●『不満足』上昇 <上位5位>



※『満足』は「とても満足」と「まあ満足」の合算、『不満足』は「やや不満」と「とても不満」の合算。

『満足』の上昇と、『不満足』の低下の差をみると、「46 行財政運営」で最も差が大きくなっており、満足が上昇しています。一方、『満足』の低下と『不満足』の上昇の差をみると、『30 斎場・墓地』で最も差が大きくなっており、満足が低下しています。

●満足が上昇した施策<経年比較・上位5位>

順位	施策	満足上昇		差の合計
		満足	不満足	
第1位	46 行財政運営	8.5	-18.9	27.4
第2位	19 労働力	8.8	-18.2	27.0
第3位	49 市民意見の反映	3.0	-14.4	17.4
第4位	29 住環境	10.6	-6.5	17.1
第5位	28 公園	7.4	-9.6	17.0

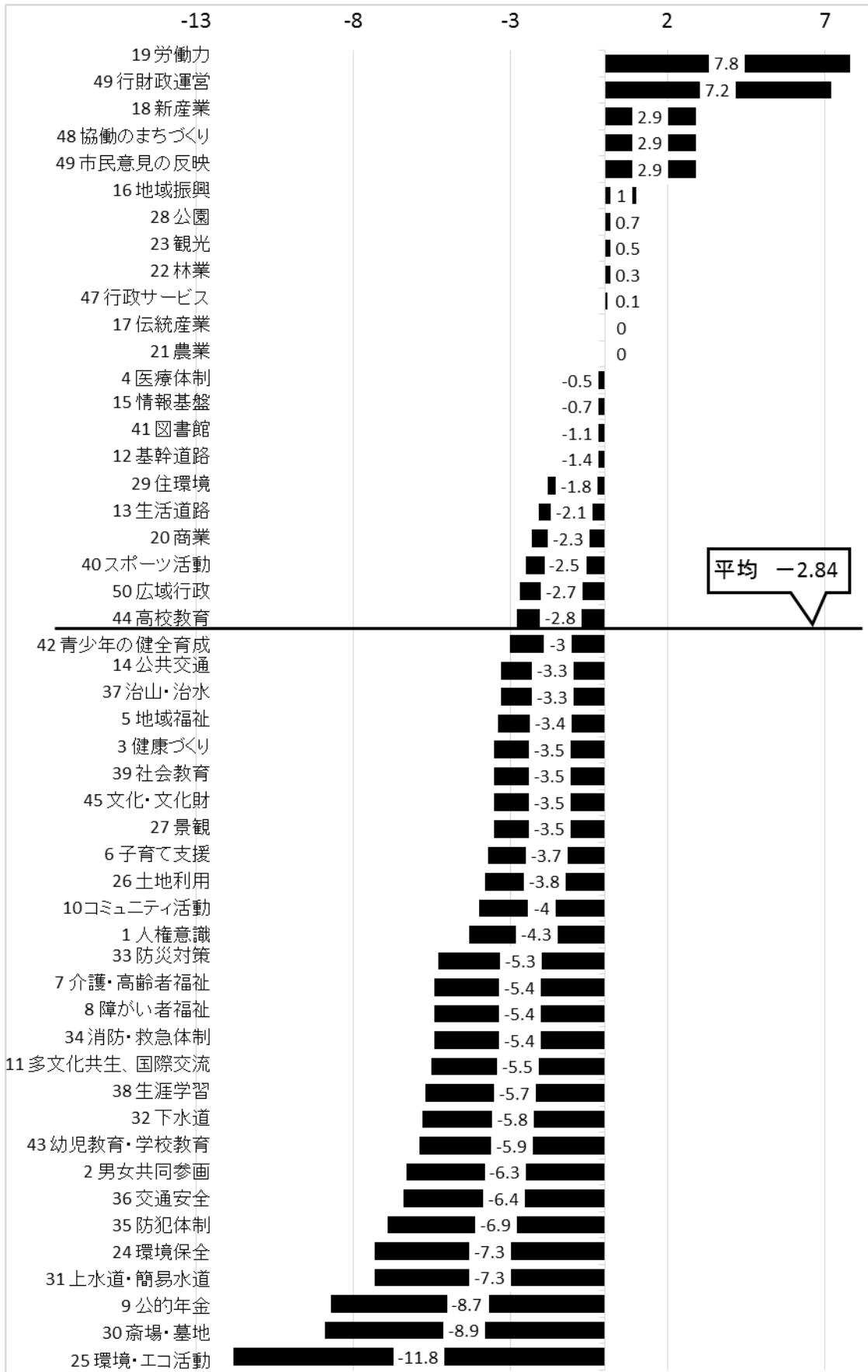
●満足が低下した施策<経年比較・上位5位>

順位	施策	満足低下		差の合計
		満足	不満足	
第1位	30 斎場・墓地	-16.2	0.9	17.1
第2位	25 環境・エコ活動	-6.2	4.9	11.1
第3位	32 下水道	-9.6	0.1	9.7
第4位	44 高校教育<教育環境>	-3.8	4.2	8.0
第5位	2 男女共同参画	-5.2	1.0	6.2

5

市民実感指標の達成度について

第4次総合計画後期計画における各分野の市民実感指標（アンケートの「とても満足」「まあ満足」「普通」の割合）について、目標値と実績値を比較しました。

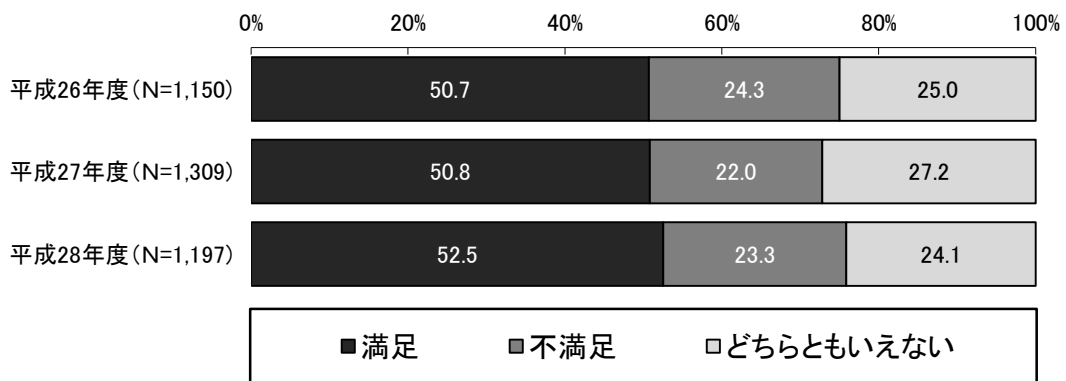


目標の達成度が一番高かったのは「労働力」で、目標値を 7.8 ポイント上回りました。目標を達成した分野は全部で 12 分野で、全体の 24%でした。しかし、平成 23 年度実績値を上回った分野は全部で 36 分野で、全体の 70.6%になり、全体的に目標値が厳しい設定であったと言えます。

6 まちづくり全体の総合評価

まちづくり全体の総合評価を経年でみると、『満足』は上昇、『不満足』は横ばい、「どちらともいえない」は低下しています。

●まちづくり全体の総合評価<経年比較>

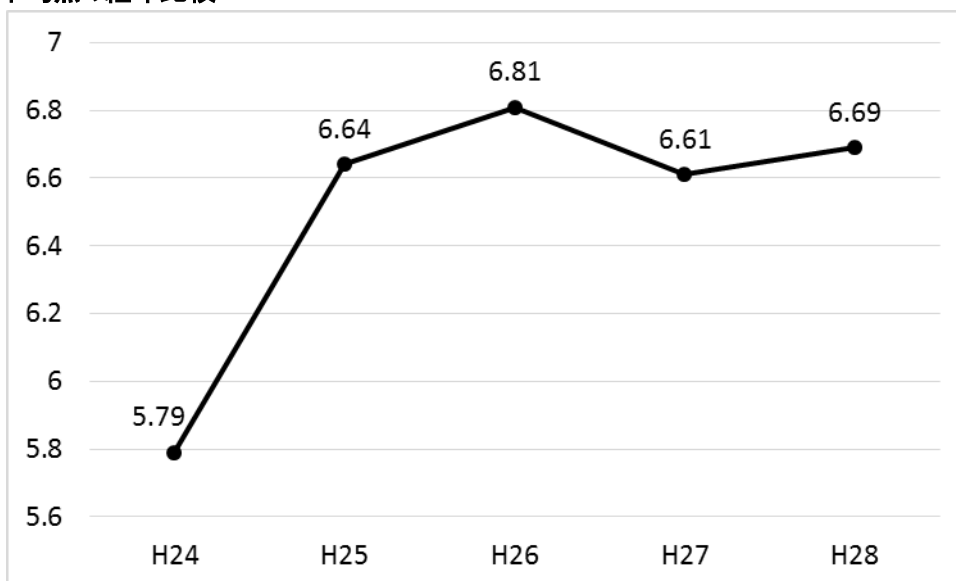


※『満足』は「とても満足」と「まあ満足」の合算、『不満足』は「やや不満」と「とても不満」の合算。
 ※「不明・無回答」は除いて比較しています。

6 幸福感について

市民の幸福感の平均点を経年でみると、平成 25 年度に大幅に上昇し、その後は 6 点台で微増微減を繰り返しています。

●幸福度の平均点の経年比較



※「とても幸せを」10点、「とても不幸せ」を0点とした場合、何点くらいになるかたすねた設問の全体の平均点